

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念が作成されている。	利用者のかかわり合いから気づかせていただき地域の中で暮らし続けることの大事さを理解、ご協力をお願いし、支えていただければと考えます。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は提示しているが、共同浸透までは至っていない。	理念を全職員に周知し、意味を理解し、サービスに反映できるようにしたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念をパンフレットに明示している。	入所時や面会時に理念の説明、理解を求めたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	○見学やボランティア、実習生等の受け入れはしております。 ○一つのきっかけで隣近所、地域との付き合いをさせていただいております。押し花、踊り、ハーモニカ、ギター演奏にも来ていただきました。	○近隣の方々が気軽に立ち寄れるような場、雰囲気を作りたい。交流へとつなげたい。 ○認知症普及活動、理解を行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を基に、改善策の検討や計画と策定するなど、今後のよりよいサービスの提供につなげるための取り組みを行っていききたい。	利用者の生の声を家族に伝え、ご家族からの評価を聞き、今後どのようなところに気を配り、実践していったらよいか方向性をみつけていききたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣の人たちに会議に参加してもらい、改善策などについて意見交換など、サービスの質の確保、向上につなげている。	○食事、おやつのアドバイスをいただいた。 ○日常の気づかないことを指摘していただいたことをミーティングで話し合い、改善、注意をするようになった。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	○市町村へホームのパンフレットを配布している。 ○運営の実態を共有しながら、アドバイスをしてもらい、利用者の利便性の向上など、生活の質を高めるための課題解決に向けて連携を図っている。	あまり連携がとれていない現状です。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要に応じて利用者や家族などに事業についての情報提供や、事業利用につなげる支援を行っている。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、具体的対応方法はまだ話し合ったり、解決方法は見つかっておりません。	虐待防止関連法の勉強会に参加していききたい。 (虐待というものへの理解をし、防止策の検討、実施を考えていききたい)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○契約時は、利用者や家族などに事業所の方針や取組みに等について説明している。 ○退去の際には利用者や家族等に不安を生じさせないよう退去先の情報提供を行う等の支援を行っている。	施設を利用するということの理解がまだ足りないのではないかと思います。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員は利用者の不安が生じないよう退去先の情報提供を行う等の支援を行っている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	○施設内での利用者の状態は家族へと報告されている。 ○金銭管理も出納帳に記載されており、要望があればいつでも開示できる。	○報告した上で、家族と施設職員で、利用者への対応、サービスの見直しが必要ではないか。 ○職員異動によるサービス提供体制の変化についてFaへ報告し、理解を得たい。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などが意見や要望などを話しやすい雰囲気作りを行っている。	家族が訪問されたときには状況を伝え、こちらから話しかけるように努めている。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ずつミーティング、ケース会議を行っている。	サービス提供（個別全体）に対して意見の交換、反映を明確にしたい。利用者、職員に支障が出ている場合、いつでもい直せる体制を取りたい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者と連続した関わりを保っている。	職員の急な休みなど、代替りの職員を確保するのが難しい状態である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当職員の異動や配置換えなどを行う際には、新しく担当する職員に詳細に引き継ぎを行っている。		配置換えなどの際には、利用者だけでなく、家族にも十分な説明をし、理解を求める。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の告知や受講に取り組んでいる。		業務について助言をする、スーパーバイザーが必要と思われる。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流、連携を通じて職員育成、よりよい運営、サービスの質の向上をするための取り組みをしていきたい。		同業者との交流をもっと密にし、交換会、食事会などを設けていきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	○職員の悩みやストレスを聞いている。 ○一方通行にならないように職員同士の双方の話を聞くようにしている。		○悩み、ストレスの傾聴、理解、解消に向けての取り組み ○気分転換がはかられる休憩時間や場所の確保
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の性格、取り組みをよく把握し、助言、励ましをしてあげる。		○サービス提供についての評価 ○職員全体、個別の評価

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用希望相談があったときは、対応の希望、身体状況を把握し、利用者、家族の信頼を築くことを意識するように努めている。	○利用前提ではなく、一つの窓口としての役割をもつ。 ○利用者の思い、希望の把握
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の利用希望者や家族のニーズに対し、できることから柔軟に実行している。	必要に応じて関係機関との連携 ○他のサービス機関との連携 ○現施設状況に合ったサービスの提供
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族などの双方の意見に沿ったサービス開始となるよう幾度も話し合いの上、調整していく。	○体験利用などを実施 (日中→日中～夜間→利用)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の喜怒哀楽に共感し、理解を示している。	共感し、理解しているが、それが問題行動となっている場合、解決、取り除く努力方法を考え、実行する。(行動を行す、本人も苦しいとおもうので)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を家族と情報交換し、家族の思いや気づきを共有し、利用者のよりよい介護の方向付けにしていきたい。		利用者が家族、施設などに、どこにいても同じ対応、介護ができるように家族と情報などを共有したい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	○家族から利用者への手紙や電話などの交流がある。 ○面会や外出もある。		家族へ協力を依頼し、外出などできなくても、面会など継続的にお願いしたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内の病院へ通院することで馴染みの人などに会う機会などがある。		○利用者の馴染みのある場所を把握し、外出できるようにしたい。 ○気軽に誰でも面会にこられるようにしたい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が、食事やトイレ、入浴、外出などの声をかけあってくれている。励ましなどの声かけもみられている。		利用者同士の性格、個性をよく把握し、支えあっていきたい。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も、家族の相談に応じるなど、支援を怠らないようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向など、職員が個々に引き出す努力をしている。	聞き出した希望や意向等が全職員へ通知、把握できるようにする。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者への個性にあわせ、サービスを提供している。	大雑把な生活歴でしか把握しておらず、もっと細かな生活歴、ライフスタイルの把握が必要。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○利用者のできることで、わかる力を把握している。 ○利用者の出したいの生活リズムを職員が把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成は利用者がその人らしく暮らし続けることができるように、性格、習慣を見極め、一歩でも前進できるよう話し合う。	以前やっていたこと、できていたことを思い出しながら、少しでもできるように介助してあげる。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間にかかわらず、利用者の身体状況の変化や、利用者や家族などの希望に随時見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を記録し、保存してある。いつでも見れるようにしてある。		実践状況や気づきが、あまり記載されていない。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性の支援は、まだ行っていません。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署立会いにて避難訓練を実施している。月に一度散髪屋が来所し、利用者の散髪を行っている。		地域住民の皆様には大変ご協力、ご理解をいただき認知症の方への取り組みをお願いしております。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望に応じて美容室への送迎、理容の出張サービスを受け入れるよう支援している。		利用者の希望を聞いて他のサービスのできるように支援している。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在までは利用していませんでした。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○利用者、家族の希望する医療機関を受診している。 ○利用者の状態に合わせ、定期だけでなく、随時受診している。		利用者の体調の変化は常に看護職員に伝え、相談しながら支援している。
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域には認知症の専門医はおりません。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の普段の状態や持病などは看護職員に把握してもらうようにしている。		利用者の体調の変化は常に看護職員に伝え、相談しながら支援している。
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院後の支援体制を家族も含めて話し合いを行っている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常的な健康管理や、急変時の対応の仕方を職員が把握している。		重度化した場合の利用者、家族、施設側の思考統一が必要である。「できること・できないこと」の明確化。家族への伝達、理解を得る。
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期には対応していない。		事業所の「できる・できない」を見極め、できない場合、利用者にとって最善の方法を普段より医療機関や家族と統一していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	職員は住み替えによるダメージを把握している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の声かけや対応について、事業所全体で日々の確認や改善に向けた取り組みを行っている。		職員は利用者個人の情報を漏らさないように気を配っている。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の日々のかかわりや、家族などからの情報により、利用者の希望、くせ、嗜好などを把握している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に合わせ、散歩や外出などを行っている。		○義務を優先してしまっていることもあるので、職員同士、互いに気をつけあう。 ○ゆとりをもてるような体制づくり。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○衣類や散髪の乱れなどさりげなくサポートしている。 ○希望に応じ、理美容院に行かれるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に片付けをしている。メニューにより、利用者と一緒に調理しているもある。		利用者と一緒に調理。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好に合わせ、提供している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツ利用者でもトイレ利用の希望があった場合、希望に添うようにしている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴拒否や、入浴できない場合などには、足浴や全身清拭などで対応している。		○曜日、時間帯も利用者の希望にあわせたい。 ○介助する側も負担にならないような体制を作りたい。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	希望に合わせて、休息をとっている。		逆転傾向が見られるので、日中の対応や医療機関に相談し、眠剤などの検討も必要ではと思われる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○食器拭きや洗濯物干しなどの依頼（役割） ○散歩などの軽運動での気分転換		多くの利用者が参加できること（散歩や買物）を多く取り入れたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力量や希望などに配慮し、買物には見守りながら、自分で支払えるようにしている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の気分転換や軽運動にその日の状況に合わせた支援をしている。		買い物や公園の散歩に出かけられるよう、声かけをしている。季節に合わせた場所や希望を取り入れるようにしている。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居してから一度もでかけられなかった理容院へ家族の支援で行けるようになった。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を楽しみにしている利用者もおられます。お話をすると落ち着かれる。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族などの訪問時には、声かけを行う等、過ごしやすい気配りをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○居室などで利用者が日常的に出入りする場所を施錠していない。 ○利用者の外出、散歩などには職員同伴をしている。	最初は帰宅願望が強く、外に出ようとしませんが、一緒に出かけ気が済むまで歩いていく。鍵をかけないケアを実践している。
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	昼夜共に、職員は利用者を見守りやすい場所にいて、利用者の様子を把握している。	本人からの承諾を得てから居室へ入るようにし、常に見回りを心がけている。
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	保管や管理方法に関する取り決めが利用者の状態に合わなくなったときには、再度検討している。	
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○転倒、誤薬、行方不明、火災の事故防止方法を理解するとともに、職員間での共有、徹底を行っている。 ○事故やヒヤリハット事例は全職員に周知させている。	日常介護では何よりもリスクが伴わないように一同気を配っている。
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	夜間の対応を含めて、緊急時対応マニュアルが作成されている。	
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○日中だけでなく、夜間も想定した具体的な避難誘導の訓練をしている。 ○災害時の対応について消防署、業者等からの協力が得られ、働きかけられている。	2ヶ月に1度火災避難訓練を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりうるリスクや対応策について、利用者の状況変化等に応じて適切に見直しを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化や異変の兆候があった場合には、記録に残すとともに全職員で共有し、必要に応じて医療機関に相談する等の対応を行っている。		日常の健康管理、持病に注意し、看護師とコンタクトを取り早期発見と対応に努めている。
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○飲み忘れや誤薬がないよう常時話し合いを重ねている。 ○薬の変更時は速やかに全職員に周知している。		名前、日付を確認し、本人が飲み終えるまで見守りを行っている。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	○一日の食事や排泄状況等に注意し、自然排便を促すよう、個に働きかけている。 ○下剤はよく観察しながら個々に合わせた使用量を服用するようにしている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	○毎食後に口腔内の洗浄や、入れ歯の手入れなどを行っている。 ○声かけをして、一人ひとりの能力に応じた支援をしている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○栄養バランスを配慮した献立をしている。 ○必要に応じて水分の摂取量を記録し、共有を行っている。		季節の野菜を重点に取り入れ、魚、肉のバランスを考えて献立をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	○一介助ごとの手洗い、消毒の実施 ○マニュアルは必要に応じて見直しを行っている。		手すりのふき取り、手洗いの徹底、調理にはすべて火を通したものにす。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	○台所や調理器具などは清潔を保持するため、マニュアルを作成し、実施している。 ○食材はなるべく新鮮なものを使用するように毎日仕入れをするよう心がけている。		食材は毎日仕入れられている。日々の管理、まな板の消毒。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	特別な工夫はしていません。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○日差しが良く、室内も広くとり、明るい居間と食堂である。 ○室内からは自然がよく眺められる。		共同空間は日差しがよく、風通しを良くし、常に温度・湿度に気を配っている。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○入居者同士が団欒できるスペースが確保している。 ○喫煙場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	○家具の持ち込み可能。 ○居室は広めにとってあり、ゆったりとした空間 であり、使い慣れた小物を持ってきてもらうよう に家族に働きかけている。		居室までの生活とかわらないような配置、家具に している。使い慣れたものを使用してもらう。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	匂いや空気のだよみがないよう、換気や温度、湿 度に気を配るようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	利用者の身体状況に応じて、洗面所や玄関には椅 子などを用意している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	利用者の状態を把握し、トイレ等に目印の設置の 表示をつけている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	玄関先に花を植えたり、植物を置いたり、敷地内 にベンチもあり、畑に園芸の野菜を育ててあり、 日々、生長を楽しみに散歩を兼ね、過ごせるよ うにしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)